

高等学校

平成 5 年 度

教 育 研 究 員 研 究 報 告 書

特別活動

東 京 都 教 育 委 員 会

平成 5 年 度  
教育研究員名簿（特別活動）

| No. | 学 区 | 学 校 名       | 氏 名     |
|-----|-----|-------------|---------|
| 1   | 2   | 都立園芸高等学校    | 千 谷 順一郎 |
| 2   | 5   | 都立足立東高等学校   | 小 野 勉   |
| 3   | 6   | 都立江東商業高等学校  | 大 塚 慶二郎 |
| 4   | 7   | 都立八王子工業高等学校 | 平 池 徳 見 |
| 5   | 7   | 都立山崎高等学校    | 志 村 結 美 |
| 6   | 7   | 都立松が谷高等学校   | 木 村 隆   |
| 7   | 8   | 都立多摩高等学校    | 小 峰 直 史 |
| 8   | 10  | 都立永山高等学校    | 馬 場 正 英 |
| 9   | 11  | 都立大島南高等学校   | 加 藤 修   |

担当 教育庁指導部高等学校教育指導課 遠 藤 隆 二

目 次

|     |  |    |
|-----|--|----|
| I   | はじめに .....                             | 2  |
| 1   | 研究のねらい .....                           | 2  |
| 2   | 研究の背景と主題設定の理由 .....                    | 2  |
| 3   | 研究の進め方 .....                           | 2  |
| II  | 学校生活に関する生徒の意識と学校行事及び部活動の実態並びにその問題点 ... | 3  |
| 1   | 学ぶ意欲と帰属意識の実態 .....                     | 3  |
| 2   | 学校行事の実態と問題点 .....                      | 6  |
| 3   | 部活動の実態と問題点 .....                       | 8  |
| III | 学校行事及び部活動の改善策 .....                    | 10 |
| 1   | 学校行事 .....                             | 10 |
| (1) | 学校行事の改善策 .....                         | 10 |
| (2) | 学ぶ意欲と帰属意識を高める文化祭 .....                 | 12 |
| 2   | 部活動 .....                              | 14 |
| (1) | 学校の指導体制と顧問の指導姿勢 .....                  | 14 |
| (2) | 生徒の意欲を高める取り組み .....                    | 16 |
| (3) | 地域、保護者及び卒業生の理解を深める取り組み .....           | 16 |
| IV  | 学ぶ意欲と帰属意識を育て高めた事例 .....                | 17 |
| 1   | 体育祭 .....                              | 17 |
| 2   | 文化祭 .....                              | 19 |
| 3   | 帆走訓練 .....                             | 21 |
| 4   | 移動教室の在り方 .....                         | 22 |
| V   | 年間の主な行事計画例（学年別簡略年間行事計画例） .....         | 23 |
| VI  | まとめ .....                              | 25 |

学ぶ意欲と帰属意識を高め、主体的、実践的な態度を育てる指導の工夫  
— 学校行事及び部活動を中心として —

## I はじめに

### 1. 研究のねらい

特別活動は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員としてよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」ことを目標にしている。学校の現状を見ると、この目標が必ずしも達成されているとは言い難い面がある。そこで、本年度研究員は、生徒同士や生徒と教師の人間関係を深めるとともに、学校への帰属意識を高め、自ら学ぼうとする主体的で実践的な態度を育てるための効果的な学校行事及び部活動の在り方を探ることにした。

### 2. 研究の背景と主題設定の理由

近年、生徒数が年々減少しているにもかかわらず、都立高等学校の中途退学者数は依然として減少していない。この原因や背景には複雑なものがあるが、その原因の一つに、学校に魅力がなくなり、生徒の学校への帰属意識が低くなっていることがあげられる。「高校生活で楽しかったこと」についての調査結果を見ると、学校行事や部活動をあげる者が多いが、中途退学者では少なく、在校生との間に大きな差が見られる。こうした実態から、学校生活に魅力をもたせ、生徒の学校への帰属意識を高めるためには、学校行事と部活動の在り方を見直す必要があると考えた。

生徒同士及び生徒と教師の望ましい人間関係を形成するとともに、生徒の学校への帰属意識を高め、豊かな心を育み、自ら学ぼうとする主体的で実践的な態度を育てるには、どのような学校行事や部活動が望ましいか、を探ることは意義のあることである。

### 3. 研究の進め方

学校行事に関しては、研究員所属校の実態調査を行い、実施時期、実施内容、事前・事後指導等の様々な観点から検討を行い、その問題点を明確にした。また、「高校生活に関する生徒の意識調査」を実施して在校生と中途退学者の意識を比較したり、生徒を引きつけている学校の具体的な実践例を分析したりするなどして、魅力ある学校行事の在り方について検討した。

部活動に関しては、部活動への加入率、部合宿への参加率等からできるだけ客観的に実態を把握し、指導実践の在り方について検討した。

## Ⅱ 学校生活に関する生徒の意識と学校行事及び部活動の実態並びにその問題点

特別活動は、学校の実態に即し生徒の特性や地域の特色を生かすなどして、生徒が「なすことによって学ぶ」自主的・実践的な活動であるが、ややもすると教師主導になりがちである。ここでは学校生活における生徒の意識の実態から学校行事・部活動の問題点を探り、その指導の在り方について考察した。

### 1. 学ぶ意欲と帰属意識の実態

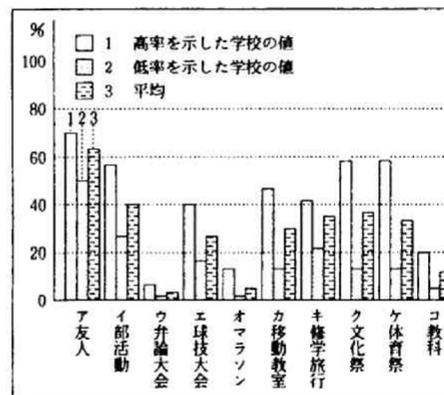
生徒の学校生活を充実したものにするには、学校への帰属意識と生徒の学ぶ意欲が重要になる。そこで生徒の学校生活に関する意識調査を実施した。(調査対象校7校、調査対象人数1352名) この調査結果と文部省の「学校不適応対策調査研究協力者会議報告」と合わせながら中途退学者と特別活動の関係についても考察した。

#### (1) 調査、統計からみた高校生の意識の実態

##### ① 高校生活の中で何が充実して

いましたか。1年生については、学校生活で何に期待しますか。

(複数回答)



○「ア」について：学校生活において充実感を得るための基本の一つは人間関係で、友人との出会いの重要性がうかがえる。また、専門学科が普通学科よりやや高いのは、実習等で共同の体験学習をする機会が多いせいではないかと考えられる。

○「イ、キ、ク、ケ」について：それぞれ30%を越えていることを考えると、学校生活の中でも重要な位置を占めていることが分かる。(特にE校では、文化祭、体育祭が約60%、部活動も約50%と高率で大変充実していることがうかがえる。)

○「ウ、オ」について：生徒の評価(充実感)と学校としての教育的意義(願い)が一致していないが、これは、生徒に「面倒くさい」「疲れる」という意識が先行するからと思われる。

○「エ」について：実施場所等の制約がなければ、もっと高くなると思われる。

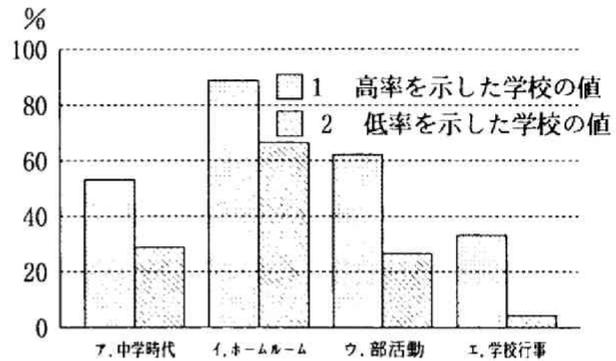
○「カ」について：移動教室（ホームルーム合宿）については、実施している学校の平均が42%、実施していない学校では16%と差がある。実施している学校では教師の期待と生徒の充実感が一致していると思われる。

○「コ」について：専門学科が普通学科の約2倍になっている。入学時の目的意識の違いが現れているのではないかと考えられる。

②高校生活での友達はどこで

知り合いましたか。

（複数回答）



○「ア」について：普通校51%、専門校37%の違いは、学区制がとられているかどうかに関係していると思われる。

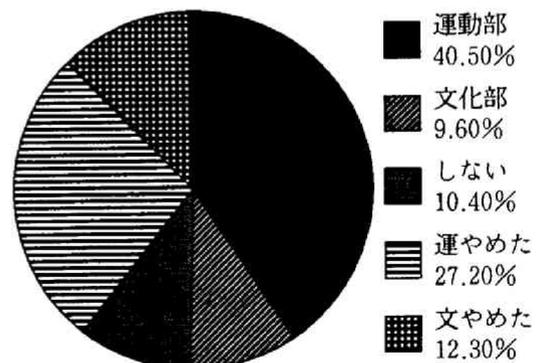
○「イ」について：少ない学校でも約70%近くある。「期待度、充実度」が最高である前述の「友人関係」と考え合わせると、ホームルーム活動の重要性が浮かび上がってくる。

○「ウ」について：平均50%越えているが、学校間の差が大きい。E校、F校で60%を越え、活発な部活動がうかがえる。少ない学校はでは28%であった。

○「エ」について：学校差が顕著である。A校7%、E校では、36%とその差が大きい。学校行事の在り方が生徒間の人間関係や学校生活の充実度に大きく影響していることが分かる。（E校では前述の「文化祭」と「体育祭」の充実度が約60%）

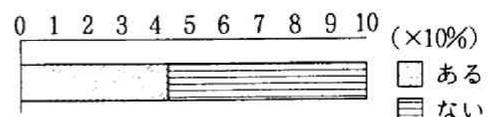
③学校で部活動をしていますか。

○「ア」の運動部で活動している者は40%を越えているが、「イ」の文化部への加入率が低い。文化部の充実が必要である。



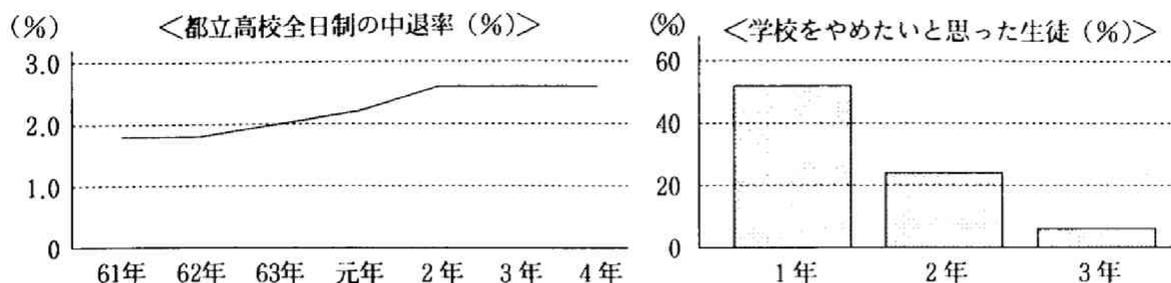
④学校をやめたいと思ったことがありますか。

○40%を越える生徒がやめたいと思ったことがあると答えている。(2)「中途推移」参照



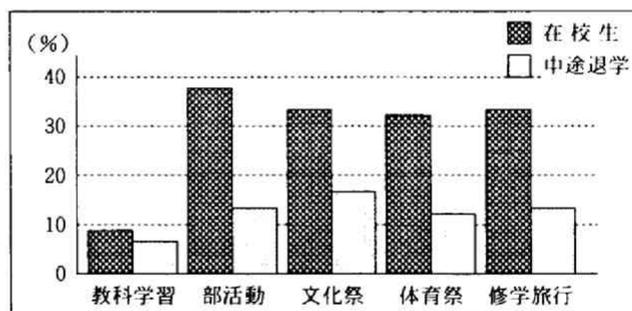
(2) 中途退学者数・率の推移（平成5年度生活指導研究協議会資料の数値をグラフ化する。）

① 昭和61年度～平成4年度間の中途退学者の推移 ② 平成4年度高等学校中途退学者の状況



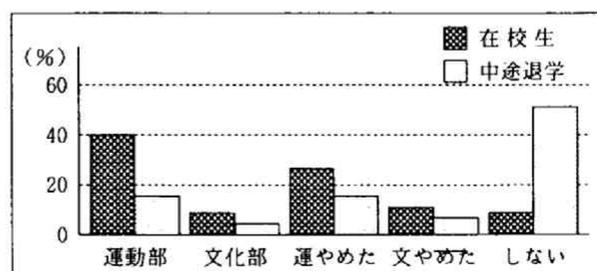
都立高等学校全日制の中退率は、昭和63年度から増加し続け、ここ2年横ばいの状態にある。1学年に多いという結果は、私達の実施した調査にも現れている。調査対象生徒1352名のうち、やめたいと思ったことがあると答えた生徒が561名（41.5％）あり、そのうち255名（45.5％）が入学してすぐか、1学年の時にやめたいと思ったことがあると答えている。1年時に人間関係を深め、学校への帰属意識を高めるのに効果のある移動教室を実施したり、在り方生き方を中心にホームルームでの効果的な指導が望まれる。

③ 高校生活で楽しかったことは何ですか。



中途退学者は、在校生と比べると、学校行事や部活動をあげた者が少ない。このことから学校行事や部活動が生徒を学校につなぎとめる効果をもっているものと考えられる。

④ 中途退学者の部活動の状況



部活動への未加入者は、中途退学者が在校生の約5倍である。生涯学習の観点に立って、部活動の在り方の見直しをする必要がある。

以上のことから、中途退学者を少なくするためにも、魅力のある内容や暖かできめ細かな援助・指導等の視点から、学校行事と部活動の見直しをする必要がある。

## 2. 学校行事の実態と問題点

前章において、学校行事は生徒の学校への帰属意識を育て高める大切な教育活動であることを述べた。そこで、研究員の所属校9校の学校行事の実施状況を分析し、その問題点を探ることにした。

次ページの「主な学校行事の実施状況一覧」を見ると、各校共通の行事が多い中で、移動教室（ホームルーム合宿）や合唱コンクールなどホームルーム単位で行う行事を見直し・精選する傾向にあることが分かる。その要因としては、次の5点が考えられる。

### (1) 特定の担当者に負担が集中する。

例えば、合唱コンクールにおける音楽科担当者や担任への負担の集中や移動教室（ホームルーム合宿）における担任への負担の集中などである。実施内容や実施方法等の検討が必要と思われる。

### (2) 行事の効果に疑問がある。

行事の実施期間が隣接しているため、十分な準備期間がとれず、その準備や指導に比べて、その行事の指導効果に疑問が起こる場合がある。生徒の実態と3年間の学校生活を見通した行事の計画・立案が課題である。

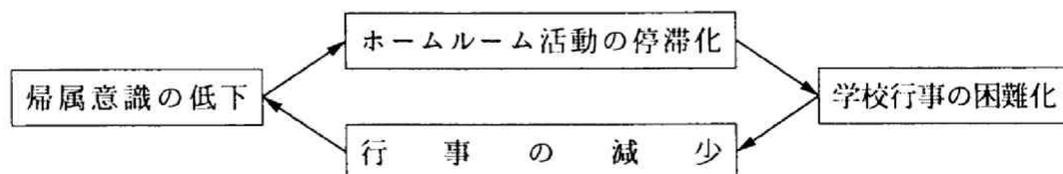
### (3) 生活指導上の問題が発生することが多くなり、負担感を覚える。

行事の準備に追われ、学校全体に落ち着きを欠き、教科学習に取り組む雰囲気失われがちである。また問題行動が起こる場合が多々あり、そうした生徒たちの指導に負担感を覚えることがある。日常的な生活指導と関連をもたせた行事指導が必要である。

### (4) 教科学習の指導に困難をきたし、その能率と効果が低下する。

計画的・継続的な教科指導が困難になったり、生徒が落ち着きを欠いたりするなどして学習能率とその効果が低下することがある。学校の教育活動全体の見直しが必要である。

### (5) 行事のマンネリ化が見られる。



上記のような悪循環が見られる。行事を定期的に点検・評価するなどして、指導の在り方についての見直しが必要である。

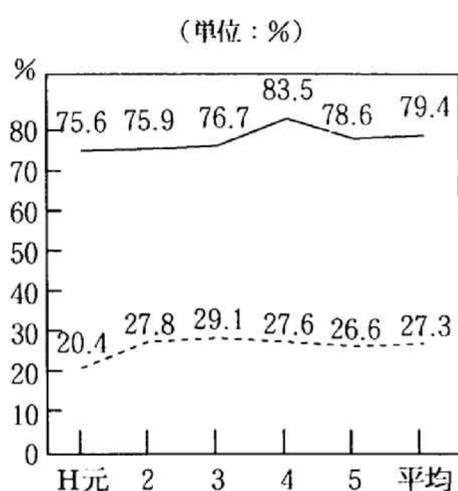
学校行事実施対象学年及び実施状況

| 学校行事    | A 校             | B 校             | C 校             | D 校            | E 校                | F 校            | G 校            | H 校           | I 校               |
|---------|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|--------------------|----------------|----------------|---------------|-------------------|
| 移動教室    | 全学年<br>11月中旬    | ×               | 1年<br>5月連休明け    | ×              | ×                  | 1年<br>5月連休明け   | ×              | ×             | ×                 |
| 遠足      | 1年              | 5月中旬            | 5月、11月          | 春、秋            | 5月中旬               | 10月下旬          | 10月下旬          | 5月            |                   |
|         | 2年              | 5月中旬            | 5月              | 5月連休明け         | 春                  | 5月中旬           | 5月連休明け         | 10月下旬         | 5月                |
|         | 3年              |                 | 5月              |                | 秋                  | 5月中旬           | 5月連休明け         | 10月下旬         | 5月                |
| 修学旅行    | 3年<br>5月中旬      | 2年<br>11月       | 3年<br>5月連休明け    | 3年<br>春        | 2年<br>11月中旬        | 2年<br>10月中旬    | 2年<br>10月中旬    | 2年<br>2月      | 3年普通科<br>6月下旬     |
| 球技大会    | 全学年<br>4月下旬     | 全学年<br>6/11(金)  | 全学年<br>6月、11月中旬 | 全学年<br>7月考査後   | 1、2年<br>2月中旬       | 1、3年<br>10月中旬  | 全学年<br>5~6月5日間 | 1年<br>2月      | 全学年<br>4、1月下旬     |
| 体育祭     | 全学年<br>10月上旬    | 全学年<br>10/8(金)  | 全学年<br>9月下旬     | 全学年<br>10月第1水曜 | 全学年<br>6月中旬日曜      | 全学年<br>6月第1金曜  | 全学年<br>9月下旬    | 全学年<br>6月     | 全学年<br>10月下旬      |
| 文化祭     | 全学年<br>11月2週末   | 全学年<br>9/22、23  | 全学年<br>10月下旬    | 全学年<br>11月中旬   | 全学年<br>9月中~下旬      | 全学年<br>秋分の日    | 全学年<br>11月下旬   | ×             | 全学年<br>11月上旬      |
| 合唱コンクール | ×               | ×               | ×               | ×              | ×                  | ×              | ×              | ×             | ×                 |
| 芸術鑑賞教室  | 全学年<br>5/1、2月下旬 | 全学年<br>5/1(映画)  | 全学年<br>5/1、2月中旬 | 全学年<br>11月下旬   | 全学年<br>6月中旬        | 全学年<br>6月中~下旬  | 全学年<br>9月      | 全学年<br>5/1    | 全学年(映画)<br>6月第4日曜 |
| 新入生歓迎会  | 全学年<br>4月上旬     | ×               | ×               | ×              | 1年<br>入学翌日         | 1年<br>入学翌日     | 全学年<br>入学翌日    | 1年<br>入学翌日    | 全学年<br>入学翌日       |
| マラソン大会  | ×               | 1・2年<br>2/18(金) | ×               | 全学年<br>1月下旬    | 1、2年<br>2月上旬       | 1、2年<br>2月上旬   | ×              | 1、2年<br>2月上旬  | 11月最終土曜           |
| スキー教室   | ×               | 希望者<br>1月休業中    | 希望者<br>12月休業中   | 希望者<br>1月上旬    | 希望者<br>12月休業中      | 希望者<br>12月休業中  | 希望者<br>12月休業中  | 希望者<br>12月休業中 | ×                 |
| 合同部合宿   | 運動部<br>8月中旬     | 希望部<br>8月       | 希望部<br>8月上旬     | ×              | 希望部<br>8月夏休中       | 希望部<br>7月休業中   | 希望部<br>8月休業中   | ×             | ×                 |
| 校内合宿    | ×               | ×               | ×               | 希望部<br>夏休業中    | ×                  | 希望部<br>7~8月休業中 | ×              | ×             | ×                 |
| その他     | 産業教育フェスティバル11月  |                 | 生徒会合宿<br>4月上旬   | 水泳大会<br>9月上旬   | 卒業ファイナルフェスティバル卒業式後 |                | 生徒会役員研修5月下旬    | ダンス発表会        | 沿岸実習2年<br>2学期30日  |
|         | 意見発表会6月         |                 | 送別会全学年<br>卒業前々日 | 工場見学<br>2年秋    |                    |                | 臨海教室1年<br>7月下旬 |               | 沿岸実習23<br>1学期46日  |
|         |                 |                 |                 |                |                    |                |                |               | 帆走訓練3年<br>1月下旬    |
|         |                 |                 |                 |                |                    |                |                |               | 弁論大会<br>全学年11月上旬  |

### 3. 部活動の実態とその問題点

部活動は教育課程外の活動であること、生徒の意欲や顧問教師の姿勢等がその活動の支えになっている実態があることなどにより、部活動についての客観的な実態把握には困難さがある。ここでは、研究員の所属校の7校の部活動への加入と部合宿参加の状況について、過去5年間さかのぼって調査し、その実態と問題点を探ることにした。(ここでいう部活動とは、部合宿が学校行事に位置付けられているものをいう。)

<表-1> 部活動加入率(一線)と部合宿参加率(二線)



(注) 1 部活動加入率は年度当初のもの

2 部合宿参加率は全校生徒数で算出

部活動加入率の平均が79.4%、部合宿参加率の平均27.3%と算出されたが、過去5年間の推移を見ると、部活動加入率はほぼ横ばい、部合宿参加率は減少の傾向にある。また、運動部と文化部の所属別を見ると、運動部が約65%を占めている。合宿の実施についても文化部は一部であり、日常活動も不活発で、文化部の活動は全般的に低調であることがうかがえる。

<表-2> 部活動の構成条件及び点検と見直しの観点

|   | 部活動の構成条件        | 部活動の構成条件の点検と見直しの観点  |
|---|-----------------|---|
| 1 | 指導方針<br>目標の位置づけ | ①伸び伸びやれる状況(施設、設備、予算、用具等)になっているか。<br>②安全性と危険度への配慮、救急体制の整備等はどうなっているか。<br>③学校開放や学校週5日制への対応はどうなっているか。         |
| 2 | 教員組織と顧問構成       | ①委嘱方法や顧問(専門、複数、男女、引率等)はどうなっているか。<br>②全員加入指導や退部者の把握とその配慮はどうなっているか。<br>③顧問間の共通理解と連携、顧問及び合宿担当者の負担等はどうなっているか。 |
| 3 | 顧問の考え方とその取り組み   | ①顧問主導型、自主性尊重型、バランス指導型等の研究をしているか。<br>②取り組む意欲と姿勢はどうなっているか。  |
| 4 | 生徒会組織の位置づけ      | ①活動内容、年間計画、予算等が部の目標に合致しているか。<br>②活動時間と活動場所の確保、休業中の活動と合宿の計画等はどうなっているか。<br>③運動系と文化系のバランス、男女のバランス等はどうなっているか。 |

|   |                        |   |
|---|------------------------|---|
| 5 | 部の自主性と自立性、<br>本人の意欲の有無 | ①組織とルールの確立（部長、顧問、出欠、人間関係等）はどうなっているか。<br>②日常活動のルールや部への加入率はどうなっているか。<br>③合宿の実施と内容（目標、時期、場所、予算等）はどうなっているか。<br>④大会や発表及び成就間や成果等について把握・分析しているか。<br>⑤反省や評価及び引継ぎ等はどうなっているか。 |
| 6 | 中学校からの継続性              | ①経験者の加入状況はどうなっているか。<br>②近隣中学校との交流と勧誘、知名度、信頼度等はどうなっているか。   |
| 7 | 保護者の理解と信頼              | ①保護者等との交流、保護者の理解・関心・信頼等はどうなっているか。<br>②学力偏重、帰宅部、アルバイト等の状況把握はできているか。  |
| 8 | 地域の理解と評価               | ①地域住民の理解、関心、信頼等はどうなっているか。   |
| 9 | 部の伝統と卒業生               | ①卒業生の組織や卒業生の協力や援助等はどうなっているか。<br>②部活動を生かした進路（生涯学習、スポーツ等）はなされているか。  |

自主的な部活動では、まず生徒自身の意欲の有無や意欲の度合いによって活動が活発化するかどうかが決まる。特に運動部については、経験者の入部者数によって部活の盛り上がりが大きく左右する。次に学校の理解度や顧問の姿勢や取り組み方等によって、部の隆盛と衰退の大半が決定付けられてしまう。近年、文化部系が低迷しているのは、顧問の姿勢とその指導の在り方に原因の一つがありそうである。従来からの画一的な指導法で生徒の意欲をなくしている実態や多様化している生徒の状況に応じた指導・援助が難しくなっている実態がある。しかし、卒業生の理解と組織に支えられ、保護者や地域住民の理解を得ながら活発な活動をしている部もある。今、部活動に対する学校の指導体制と顧問教師一人一人の指導・援助姿勢が問われていると受け止めている。最近の生徒の特徴・傾向として、「努力しない」「苦勞したがらない」「汗を流さない」「面倒な人間関係を嫌う」者が増え、俗に言う「帰宅部」「アルバイト」など安易な方向に流れる傾向にある。

以上のようなことから、部活動の問題点は、大きく次の三つにまとめられる。

- 学校の指導体制と顧問の姿勢及び指導・援助（表2の1から3）
- 生徒自身の意欲と活動姿勢（表2の4から6）
- 保護者、地域及び卒業生の理解と協力（表2の7から9）

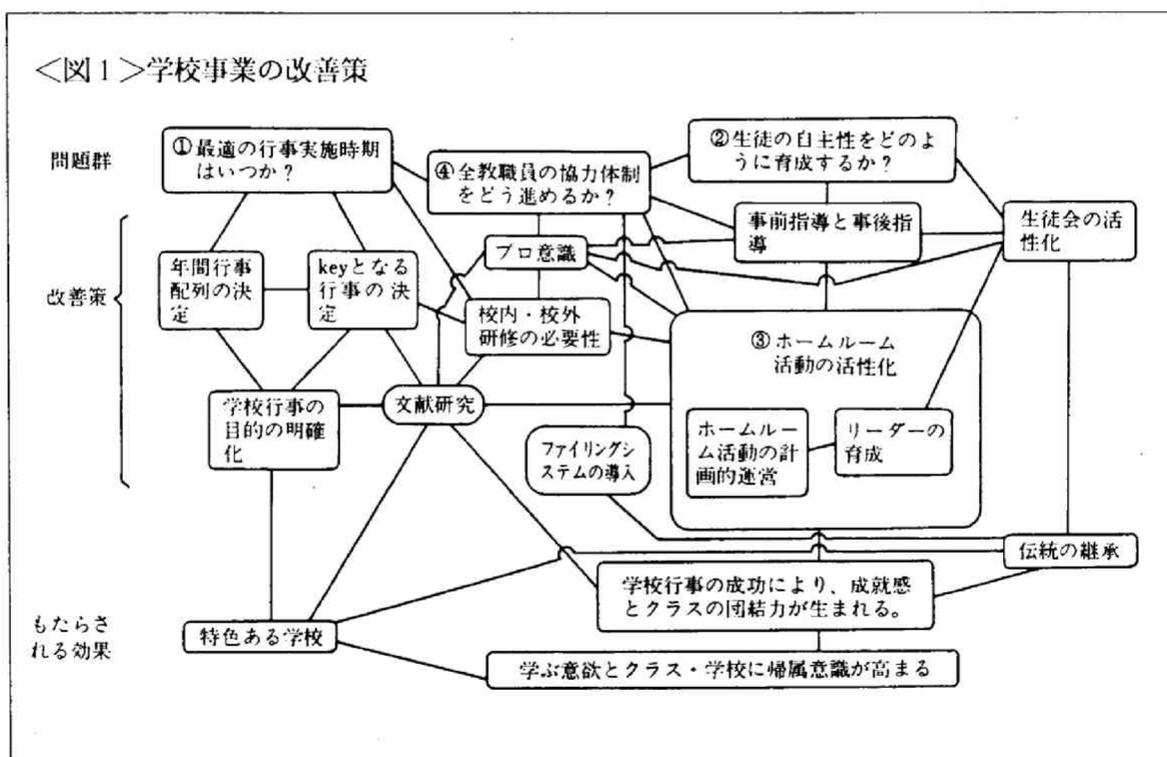
### Ⅲ 学校行事、部活動の改善策

#### 1. 学校行事の改善策

学校行事は、生徒の学校での生活に潤いとアクセントを与え、学校生活の充実と発展に資するねらいをもって実施されている。しかし、そのねらいが必ずしも十分に達成されているとは言い難い実態がある。そこで、生徒の自主的で実践的な態度を育み、スクール・アイデンティティを育成する観点から、学校行事全体とその在り方を見直すとともに、学校行事の中の一大イベントである文化祭の活性化のための改善について考察した。

##### (1) 学校行事の改善策

研究員の所属校9校の学校行事（P6参照）の問題点をブレインストーミング法を用いて明らかにした。明らかにされた問題群をKJ法を利用して抽象的化してできあがったのが、図1の「学校行事改善のための相互連関図」である。ここではその改善点を4点に整理した。



##### ①行事の配置と実施時期＜行事集中型＞と＜行事分散型＞

|       | 長 所                                 | 短 所                   |
|-------|-------------------------------------|-----------------------|
| 行事集中型 | 教科学習に集中しやすい環境を作れる。                  | 行事を実施するのに精一杯となる傾向にある。 |
| 行事分散型 | 学校生活に変化をもたせることができる。<br>行事を丁寧に実施できる。 | 教科学習に集中を欠くこともある。      |

行事は、教育目標に基づき、生徒や地域の実態に即し、3年間を見通して適切に実施する必要がある。各校の行事を分析すると、集中型と分散型の二つのパターン分類できる。

4ページの調査結果によると、約40%の生徒が「学校をやめよう」と答え、その時期は、1年の1学期に集中しながらも、全学期にまたがっている。学校への帰属意識を高めるといふ観点に立つと、行事は分散型にして、生徒同士や生徒と教師の人間関係を深めながら、生徒の生活に潤いとリズムを作ることが望ましいと言える。

### ②生徒の参加度合い<教員主導型>から<生徒主導型>へ

現在の都立高等学校では生徒が多様化し、ほとんどの行事を生徒の手で自主的に運営している学校から、教員主導で何とか行事を成立させている学校もある。しかし、どんな学校であれ、教師が生徒に行事のねらいや実施内容・運営方法等のモデルを示しながら<生徒主導型>へと転換することが必要である。教師が動かなければ生徒も動かないし、動いたとしても放任になってしまう恐れがある。「生徒の活動意欲を高める」という観点から生徒に働きかけ、教師が率先してモデルを示して生徒の活動を励まし、生徒に自信をもたせることが重要である。その際、リーダー研修会を実施するなどして、核となる生徒を育てることも大切である。こうした<生徒主導型>への転換は、ホームルーム活動を生き生きとした時間にすることができる。ホームルームでの「生徒一人一人の存在を生かせる場」を設定することは、ホームルーム活動を活発にし、学校への帰属意識を高めることになるからである。



### ③教師の参加度合い<一部の担当教員主導型>から<全教職員の共同歩調>へ

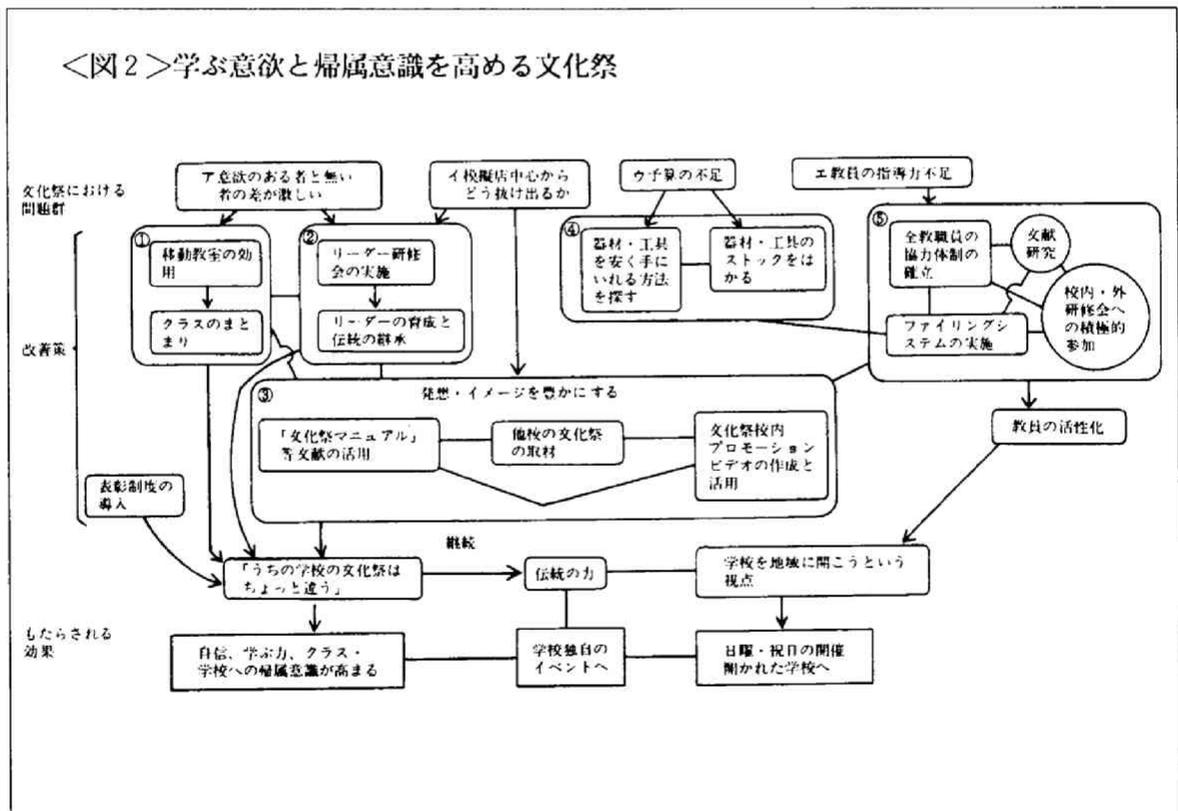
<一部の担当教員主導型>では、当該教員の異動等により行事が衰退してしまう可能性が高い。そこで、全教職員の共通理解と学校の指導体制を整え、全教職員が事前指導から当日の指導及び事後指導まで歩調を合わせて行う必要がある。教師の行事に取り組む姿勢や学校に対する愛校心が、生徒の帰属意識を育んでいくものと考えられる。

④ホームルーム活動<事務連絡の場>から<人間としての在り方生き方を考える場>へ

ホームルームと学校行事は車の両輪の関係にあり、ホームルーム活動は学校行事を活性化する上で大きな比重を占める。ホームルームで生徒一人一人に存在感と「活動の場」を与えることで、学校行事への参加意欲を高めることができる。例えば、移動教室やリーダー研修会と連動しながら、ホームルーム活動を計画的・組織的に運営する方法がある。担任は、生徒がホームルームを人間としての在り方生き方を自覚し実践する場と位置付け、学校行事と関連させたホームルーム経営案とホームルーム活動の指導案を作成して実践すべきである。（『平成4年度教育研究員研究報告書』によると、ホームルーム活動の指導案を作成している教師は3割程度である。）その際、「クラスの生徒全員がリーダーになれる」という発想で、事前指導から事後指導まで丁寧に援助することが行事成功の秘訣である。

(2) 学ぶ意欲と帰属意識を高める文化祭

都立高等学校11校の文化祭についての調査結果を、KJ法を利用して整理したのが図2である。「文化祭における問題群」としてあげた4点は、どの学校でもかかえる悩みである。



優れた実践をしているA校の文化祭とE校の体育祭は、地域の評価も高く、毎年多数の来場者がある。それが生徒の自信と学校への愛着を深め、一層の工夫をし、努力するという相乗効果を生んでいる。ここでは、A校とE校の優れた実践に学びながら、文化祭の活

性化について考察した。

①移動教室（ホームルーム合宿）を中心にすえたホームルーム経営が重要である。宿泊を伴う体験学習は、人間関係を豊かにし、ホームルームへの帰属意識を高める。それは、教科学習や他の特別活動への波及効果をもたらす。移動教室での文化祭についての討論は、文化祭への関心と主体的な取り組みへの意欲を高め、生徒に活動の場を与えるとともに、生徒の学級での存在感を高めている。

②リーダー研修会と連動し、リーダー層の発掘と育成に努めることが大切である。E校の生徒用の「文化祭引き継ぎノート」、J校の「文化祭マニュアル」は、リーダー研修会における指導実践の上に成り立っている。

③発想とイメージを豊かにする必要がある。様々な文献を活用したり、他校の文化祭を取材したりすることも大切である。E校での文化祭プロモーションビデオの作成は、映像世代ともいわれている現代高校生の動機づけ・指導に大変有効であると思われる。

④器材・工具をいかに安く手に入れるか等の情報収集やそのストックの在り方も大切である。教育目的であると、企業や財団は好意的に器材を貸してくれることもある。

⑤校内外の研修会に参加して、教員の発想、技術力、指導力を高めることが大切である。K校の行事のファイリングシステムの導入は、伝統の継承と全教職員協力体制の確立という点でも大きな効果をもたらしている。

「我が校の文化祭はちょっと違う」と、生徒に思わせたい。そうした文化祭を重ねることが「伝統」となり、学校の特色につながる。文化を創るという困難な作業、課題を克服する過程の中から、問題解決能力が生まれ、自信が育まれる。そこからクラス、学校への帰属意識が高まっていくものとする。

#### ブレインストーミング法

一人一人のもっている知恵や情報を討論により共通の場に吐き出す方法のひとつ。

①他人の意見を否定しないこと、②自由に意見を述べること、③多量のアイデアを出すこと、④他人の意見に触発されて自分の意見を発展させることなどが大切である。

#### KJ法

川喜田二郎氏の考案した発想法のひとつ。ブレインストーミングにより出された意見を以下の順序で一巡する方法である。①集めた資料のエッセンスをメモしたカードづくりをする。②同類と思われるカードを集め、そのカードのグループ編成をする。③グループ編成されたユニットを「意味が首尾一貫した落ち着いた構図」に配列する。④その図解をもとに文章化を行う。（川喜田二郎著「発想法」「続発想法」）

## 2. 部活動

ここでは、前述の部活動の問題点の指摘を受け、その解決と改善について考察した。

### (1) 学校の指導体制と顧問の指導姿勢

#### ①学校全体の指導体制と顧問の指導

部活動を顧問教師に任せきりにせず、年度当初の年間計画書や活動計画書、学期ごとの活動状況の報告書等を提出させるなどして、学校全体として部活動の状況を把握しておく必要がある。また、所属の変更の際には転・退部届を提出させるとともに、活動の実態調査を年間に2回程実施し、加入状況を確実に把握しておく必要がある。

部活動の顧問や指導者は、当該校の教員であることが望ましい。部活動の活発な学校は、「すべての教師が部の顧問になっている学校」に多く、顧問教師がその指導の中心になっていることからもうかがえる。(平成4年度高等学校教育開発指導資料集P5)  
顧問の配置については、教員の希望や、指導力を発揮できる可能性を最優先すべきであるが、専門性、年齢構成、男女の特性、加えて指導に対する意欲等も考慮して委嘱すべきである。その際には顧問の複数化がぜひとも必要である。それは、異動に伴う活動の衰退防止、平日指導の交替や休日引率等の負担解消等のためでもある。

#### ②部活動顧問委員会等の設置による顧問間の連携・協力

部の活動状況が思わしくなくなると、えてして顧問の意欲がなくなり、その結果顧問によっては、その原因を生徒の意欲のなさや、施設・設備、予算等の条件の悪さに転嫁し、自ら指導の活力を失っていくことがある。そのような事態に陥らないように、活動状況の報告や公式戦・コンクール等での活躍、活動における問題点などについて、定期的に顧問間で協議・検討する〈部活動顧問委員会〉などを設定し、お互いに連携を図り合っ、切磋琢磨しながら指導に当たる環境作りを行う必要がある。

#### ③評価の改善及びホームルーム担任との連携

対外試合やコンクールにおける成績等がその部の主な評価になりがちであるが、顧問教師の経験や考え、あるいは生徒の自己評価だけに任せず、学校全体として評価基準を設けて適切な評価を行うことが必要である。評価の内容としては、指導体制、都全体の活動状況、部員一人一人の活動状況等が考えられるが、評価は、より一層充実した活動になるように客観的で、具体的にすることが大切である。評価に当たっては、顧問自身の評価だけでなく、部員の評価、部員一人一人の相互評価等を総合できるようにすることが大切である。また、入学から卒業までの〈部活動個人票〉を作成し、その年度の活動

の記録を顧問が学期ごとに記入し、ホームルーム担任の生徒理解の資料にすることも大切である。

④条件整備

施設・設備の充実や予算の増額などの物的条件の整備に対する要望が強くなっている。顧問の指導意欲を高める上からも、でき得る限りの充実を継続的に行っていく必要がある。

⑤ホームルーム活動における指導

ホームルーム担任は、生徒に部活動の意義を説いてその積極的な参加を促すとともに、生徒一人一人の加入状況や活動状況の実態を常に把握する必要がある。生徒の体調や心理

状態、あるいは人間関係の状況を把握し、カウンセリングマインドをもって対応していく必要もある。

⑥合宿の実施

長期休業期間は、日常の取り組みでは不十分な点を補うことが可能となり、集中的な活動計画のもとに指導の強化を図るという観点からも、合宿の実施を計画すべきである。また、合宿は、寝食を共にすることにより、教員と生徒、生徒同士の望ましい人間関係の育成という面からも必要であると思われる。

(2) 生徒の意欲を高める取り組み

①全校生徒の全員加入の指導

年度当初に、学校での部活動の意義を十分理解させ、生徒全員が何れかの部に参加するよう援助・指導する。部活動への加入を、生徒の自ら学ぶ意欲を育て、学校への所属感と帰属意識を芽生えさせるきっかけとしたい。

②生徒の積極的な参加の援助・指導

教員の積極的な指導を基本にして、生徒の活動意欲を喚起することが部活動活性化への近道であることは疑う余地のないところである。毎月1回部活動顧問委員会等を持ち、生

| 平成__年度 《部活動個人票》 |         |     |     |     |
|-----------------|---------|-----|-----|-----|
| __年__組 氏名__     |         | 1学期 | 2学期 | 3学期 |
| 所属部             |         | 部   | 部   | 部   |
| 出席状況            | (参加態度)  |     |     |     |
| 練習に積極的だったか      | (活動意欲)  |     |     |     |
| 技能は上達したか        | (技能上達)  |     |     |     |
| 力を合わせて活動したか     | (協調性)   |     |     |     |
| 部内での役割を果たしたか    | (責任感)   |     |     |     |
| 目標を達成するように努力したか | (目標達成)  |     |     |     |
| 自分の意見を述べて発表できたか | (自発的活動) |     |     |     |

A: よく努力している B: 努力している C: 努力が必要

《顧問のコメント》

| 1 学期 | 2 学期 | 3 学期 | 学 年 |
|------|------|------|-----|
|      |      |      |     |

徒の参加や活動状況等を報告し合い、不参加の多い生徒にはホームルーム担任と連携を取りながら、積極的な参加を促すよう努力する。

### ③事前指導の充実

あらかじめ顧問と部長等で話し合われた活動方針や、一定の期間を見通した活動計画及び大会・コンクールへの参加などについての理解を得られるようにしておく必要がある。また、合宿においては、個人の課題を設定させ、参加意欲を高めさせるなどのきめ細かな指導が必要である。

### ④事後指導の充実

一定期間ごとの目標の設定とその反省、さらに新たな課題の発見、そして次なる目標の設定という継続性のある一連の過程の中で、きめ細かなプラス面での評価をすることが大切である。合宿においては、事前に掲げた課題の達成度を個人で評価させ、次なるステップへとつなげていく必要がある。

## (3) 地域、保護者及び卒業生の理解と協力を深める取り組み

### ①地域の理解と協力を深める取り組み

施設や設備の充実度に左右されるが、日頃から地域の社会人や中学生などとのコミュニケーションを図り、施設や校庭開放なども含めた開かれた部活動づくりを目指すことが大切である。また、活動の状況や公式戦・コンクールなどにおける実績などを校外の掲示板や広報誌などを用いて、地域の人々に広くPRし理解を求める努力をすることも必要である。

### ②保護者の理解と協力を深める取り組み

顧問が部活動の「保護者通信」を定期的に発行し、活動の状況を具体的に報告するとともに、部の保護者会の開催、練習や練習試合の見学会、公式戦やコンクールなどへの招待等を行い、より一層の理解を深める努力をする。

### ③卒業生の理解と協力を深める取り組み

顧問が部活動の「卒業生通信」を定期的に発行し、活動の状況を報告するとともに、卒業生の会開催や、公式戦やコンクールの応援などへの招待を行い、卒業後も後輩の育成・指導に協力を要請する。在校生にとっては、卒業生との交流が多くの情報源となり、さらなる活力を引き出すことにつながると考えられる。

## IV 学ぶ意欲と帰属意識を育て高めた事例

### 1. 体育祭

E高校の体育祭は、今年第10回を迎え、創設時からの願い通り、名実ともに「地域の名物」となっている。本年度は朝のうち雨が降っていたにもかかわらず、2000人の来場者の声援と生徒の熱気で今までに増して充実したものになった。閉会式は、感激で涙を流しながら全員で肩を組み、大合唱する校歌で幕を閉じた。この体育祭は、E高生の誇りとして、思い出深く心に刻み付けられるものである。

#### (1) 実施時期等の工夫

6月上旬の第1または第2日曜日に実施し、雨天の場合は順延とし、中止には決してしない。梅雨入りの季節であるが、他の行事との関連を考え（文化祭9月中旬、修学旅行11月中旬）、この時期に実施している。一つ一つの行事を大切に、より多くの生徒の力が発揮できるように、そして、より質の高いものを創り上げるためには、準備期間を適切に設けることが必要である。この考えにより、1学期に体育祭、2学期に文化祭と2大行事を分けて実施している。また、E高校は開設当時から「地域に根ざした学校づくり」を目指している。体育祭においても生徒の日頃の活動の成果を発表し、地域の人々の理解を得る機会とする趣旨で、休日開催を前提としている。幸いなことに10回を迎えた現在、保護者、卒業生だけでなく、近隣の人々、地域の小・中・高校生が朝早くから声援してくれる。「E校の体育祭に参加したい」という思いで入学してくる生徒も少なくない。また、近隣の一軒一軒に生徒が案内状を配布し、協力をお願いするなどの配慮もしている。

#### (2) 競技形式・組み分け等の工夫

誕生月による四季別〈春（3－5月）夏（6－8月）秋（9－11月）冬（12－2月）〉の組み分けを行う。また、四季が緑、赤、黄、青と色別され、それぞれカラーTシャツを着用する。3年間縦割りにされた同じ組・色に属することは、帰属意識を高め、団結力を培うことになり、さらには継続的な活動と発展を生み、伝統化し易い。また、上級生の指導力を育成し、生徒主導の運営をし易くする。色別カラーTシャツを着用することは、これらの効果を一層高めている。このように四季別の組み分けはクラス数の増減によっても変化がなく、長期的な展望が立て易い。

#### (3) 競技内容・実施内容等の工夫

##### ① 競技種目

個人種目・集団競技・集団演技の3つに分かれ、騎馬戦・棒倒し・棒引き・四季別対抗リレーなど全力を尽くしたエネルギーをぶつけ合う「競技種目」と、障害物競争などの「レクリエーション種目」との内容的なバランスを考慮して決定される。儀式は厳粛に行うという観点から入場行進・開閉会式は緊張感をもたせ、得点の対象としている。集団演技は、1年「オリジナル体操」、2年男子「組体操」、2年女子「ダンス」とどれも完成度が高く、観衆を圧倒し、終了時に感激で涙する生徒も多い。一人も欠けられない集団演技の中で集団における存在意義を見出し、集団の中の在り方を考え、他人への思いやりと協働の心を学ぶ。



感動と協働の組体操  
(4重の塔)

## ② 応援団の活動

前年度終了直後から次年度に向けて準備を始める。企画・団編成・団長の選出は前年度2月に行われ、新入生を迎え、本格的に準備が始まる。3年の団長を中心に伝統を引き継ぎつつ、各学年のカラーを出し、優勝をねらい、マスコット製作、団別応援、ショータイムの練習を重ねる。マスコットは、立体的で規模も大きく、移動したり、仕掛けがあったりと工夫が凝らされる。ショータイムは体育祭の目玉の1つで、最も応援団が力を入れるもので、観客を楽しませ、目を見張らせる。その内容の濃さ、団結力の強さ、アピール性の高さには毎年驚かされるものがある。

## (4) 教員の取組み

生徒指導部・保健体育科を中心に全教員が係を受けもち、誕生月で生徒と同様、各団に分かれる。教員と生徒が一体になり各団を盛り上げ体育祭を創り上げていく。さらに、教員間に一体感も生まれてくる。このように生徒・教員・地域(保護者を含む)が一体となって体育祭を創りあげていく姿勢を大切にしている。

## (5) まとめ

生徒は体育祭を通し、感動と成就感を体感し、自信をもつ。自分自身への自信をもつとともに、学校に対しても、自信と誇り、そして、帰属意識を高めている。このことは、生徒に人間としての在り方生き方を考えさせ、将来の自己実現にも大きく影響している。今後は「地域の名物」ととどまらず、よりオリジナルな内容を盛り込んで、さらに発展させていく必要がある。そのためには、全教職員の共通理解を深めるとともに、生徒の自主性と主体性を尊重しつつ、より適切な助言・指導をする必要がある。

## 2. 文化祭－専門学科の発表展示とホームルーム発表を柱とする文化祭

都立A高等学校の文化祭では、毎年11月の第2週の週末に開催され、近隣からは2日間で、8000人を越える来場者がある。専門学科の学習で生産される農産物や加工品の販売の人気も手伝って、地域の秋の行事として親しまれている。

### (1) ホームルーム発表の充実

この学校の文化祭の内容は、伝統的に専門学科の学習成果や生徒の作品の展示発表に重点が置かれたいた。このため、文化祭の準備期間になると、生徒の大半が学科内の各部所に分かれて展示準備にとりかかるのでホームルーム発表は行われていなかった。

しかし、10年前から各学科の特徴を生かしたホームルーム発表の充実を図って、全ホームルームで文化祭の発表を行うよう指導し実施してきた。その結果、生徒の自由な発想による趣向を凝らした発表が数多く見られるようになり、好評を博すようになった。

発表内容は縁目的なものになることを避け、専門の学習に関係するものにして、学校の特色がみられるように指導している。

生徒の文化祭への取り組みは積極的で、全校の準備期間に入る前から、放課後など自主的に必要な準備を始める。また、終了後の後始末まで全員で行うことによって、学科やホームルームにおけるの望ましい人間関係が形成され、生徒は達成感、成就感を味わっている。

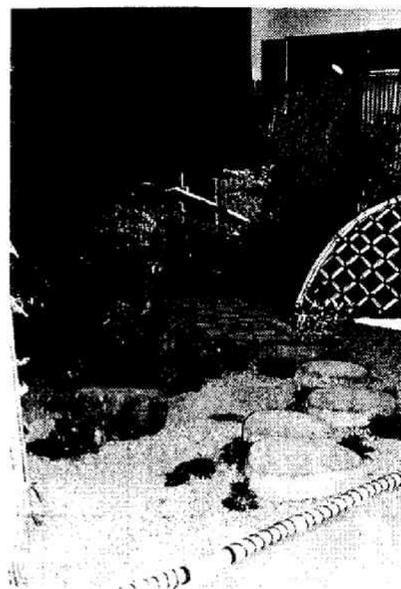
### (2) 主な発表内容

|       | 専 門 学 科                                | ホ ー ム ル ー ム   |
|-------|--|---|
| 園 芸 科 | バイオテクノロジー、小菊、大菊、果物、実習の紹介、野菜の販売、バラ園の内容等 | ジャングル喫茶（熱帯植物を使った室内装飾）、野草のてんぷらの試食、自作のフラワーアレンジメントを使った花嫁衣装のファッションショー、ハーブ喫茶 |
| 造 園 科 | 庭園設計図、庭園模型、竹垣、苗木実習の紹介、樹木の名前当てクイズ       | 教室内の日本庭園  |
| 食品化学科 | クッキー、味噌、乳酸飲料の販売、発酵食品の研究、実習風景の紹介        | 食品添加物の調査・研究、安全な食品をテーマにした休憩所、アジアの発酵品の試作と試食                               |

### (3) 生徒の組織作りの例

日本庭園製作では、ホームルームで次のような係り分担を組織し、取り組んだ。(在籍36名)

- プロジェクトリーダー(1名):プロジェクト全般を統括し指導教員との連絡に当たる
- デザイン担当(3名):庭園設計図を作成する
- 材料担当(10名):庭園に必要な材料を準備する
- 施工担当(12名):教室で庭園施工に当たる
- サービス担当(10名):展示中の来場者への説明及びお茶の接待に当たる。



### (4) 指導上の留意点

- ①準備のための打合せは、ロングホームルーム等の時間に行い、役割分担は文化祭2カ月前までには決定して具体的な作業にかかる。
- ②ホームルームの生徒全員が何らかの役割をもつ
- ③第三学年次には、庭園製作のプロジェクトが最初から最後まで生徒自身の自主活動によって完成するよう、日頃から意図的・計画的な援助と指導を行う。

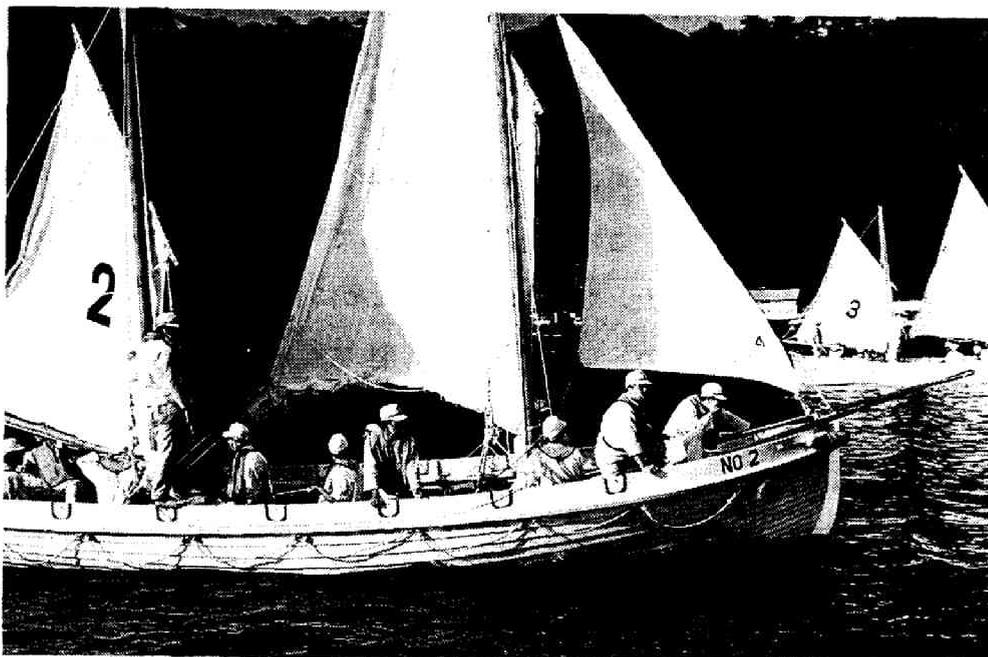
## 3. 帆走訓練

本校は都立高校で唯一の海洋科があり、約90%の生徒が都内出身者で寮生活を送りながら学んでいる。生徒の目的意識は高く、学年を追うごとにたくましく成長している。次頁の実習一覧表は、本校の3年間の帆走訓練の主な計画である。3年の1学期ですべての実習が終わる。2学期中にほとんどの生徒の進路先が内定するが、進路先が内定すると、学校生活に目標を失いがちになる。そこで、この時期に目標をもって学校生活を送らせるねらいから、10年前より帆走訓練を取り入れた。“一人はみんなのために!みんなは一人のために”をモットーにカッターボートに帆を張り、自然(風)を利用して艇を操作する。帆走訓練では、生徒の自主性を大切にし、生徒自身が役割を分担し、艇を動かす。この時期の3年生の団結力はこれが頂点になる。帆走は気象条件に大きく左右されるので、“常に備えよ”を合言葉に生活の中に帆走精神を取り入れ、何ごとにも手抜きしない伝統が生まれている。

帆走訓練のフィナーレは卒業式である。一人も欠けることなく、全員が胸をはって卒業式

を迎えることが目標であるが、一人の卒業延期の仲間のために、クラス全員が一人だけの卒業式に集まり、彼の卒業を全員で祝福したことがある。帆走訓練を通して、学ぶ意欲と帰属意識はさらに高まり、世界に活躍する水産健児が育っている。

| 学年 | 実習名                    | 日数         | 寄港地                   | 内 容   |
|----|------------------------|------------|-----------------------|---|
| 1年 | 海洋実習<br>体験乗船<br>いずれも7月 | 14日<br>4日  | 大島一周<br>大島近海          | カッター訓練、潜水<br>2年次、3年次乗船実習のオリエンテーション                |
| 2年 | 沿岸航海<br>9月～12月<br>沿岸航海 | 46日<br>46日 | 小笠原<br>神戸、広島<br>博多、長崎 | 海洋観測、プランクトン調査、<br>底魚調査、沿岸航法<br>小笠原～瀬戸内海 前後班に分けて実施 |
| 3年 | 遠洋実習<br>4月～7月          | 46日        | 東京<br>ボナペ<br>サイパン     | 漁業調査、魚体調査、海洋観測、プランクトン<br>調査<br>前後班に分けて実習 1航海20名   |



#### 4. 移動教室の在り方

東京都教育委員会の生活指導研究協議会資料によれば、平成4年度の移動教室実施校は全都立高校の53.3%であった。ほとんどの学校で実施される体育祭や文化祭と比較するとかなり低い実施率である。

生徒の意識調査の結果によれば、42%の生徒が充実していた行事として移動教室をあげており（3P）、文化祭や体育祭を越えている。このことは、また、高校生活で友人と知り合った場としては、70%以上の生徒がホームルームをあげている。学校生活の基盤であるホームルームの重要性を示しているとともに、ホームルームにおける移動教室のもつ意義の大きさをうかがうことができる。生徒の多様化している状況の中で、きめ細かな移動教室は、大変意義のある行事であり、どの学校でも実施すべきものとする。

##### (1) 移動教室の目的

移動教室には様々な目的を設定できるが、帰属意識を高め、自ら意欲をもって主体的に教科学習や行事に取り組む態度を育成する観点から、学年別にその目的を考察した。

- 1年 ①高校生活の概要や学校のルール等を理解し、教科学習や行事などに意欲的に取り組み、主体的な学校生活ができるような態度と能力を育成する。
  - ②豊かな心を育て、望ましい人間関係を形成する。
  - ③自己を見つめ、人間としての在り方生き方の自覚を深めさせる。
  - ④自己の特性にあった学習方法を習得させ、学習習慣を身に付けさせる。
- 2年 ①学校生活の中核的存在であることを自覚し、諸活動を主体的で自発的にリードしていく能力と態度を養う。
  - ②自己の将来設計をさせ、自己実現のための学習能力と態度を育成する。
- 3年 ①最高学年としての指導的立場にあることを自覚させ、下級生への模範となる態度を育成する。
  - ②自己実現に向け、計画的で着実な努力のできる意欲と能力を育成する。

##### (2) 実施時期

中途退学者は1学年に多く、45%の生徒は入学した直後の時期にやめたいと思っている。このことから、1学年での移動教室の実施はなるべく早い時期がよいと思われる。また、就学相談員活動報告によると、各学期の終わりごとに相談件数のピークが現れる。したがって、2、3学年で実施する場合でも、1学期中に実施することがより大きな効果あると思われる。

## V 年間の主な行事計画例

|      | 1 年            | 2 年            | 3 年            |
|------|----------------|----------------|----------------|
| 4 月  | 入学式            | リーダー研修会        | リーダー研修会        |
|      | 移動教室           | 移動教室           | 進路教室           |
| 5 月  | 中間考査           | 中間考査           | 中間考査           |
| 6 月  | 体育祭<br>芸術鑑賞教室  | 体育祭<br>芸術鑑賞教室  | 体育祭<br>芸術鑑賞教室  |
|      |                |                |                |
| 7 月  | 期末考査<br>球技大会   | 期末考査<br>球技大会   | 期末考査<br>球技大会   |
|      |                |                |                |
| 8 月  | 合同合宿           | 合同合宿           | 合同合宿           |
|      |                |                |                |
| 9 月  |                |                |                |
| 10 月 | 合唱コンクール        | 合唱コンクール        | 合唱コンクール        |
|      |                |                |                |
| 11 月 | 中間考査           | 中間考査           | 中間考査           |
|      |                |                |                |
| 12 月 | 文化祭<br>生徒会役員改選 | 文化祭<br>生徒会役員改選 | 文化祭<br>生徒会役員改選 |
|      |                |                |                |
| 1 月  | 期末考査           | 期末考査           | 期末考査           |
|      | スキー教室          | スキー教室          | スキー教室          |
| 2 月  | 生徒会執行部合宿       | 生徒会執行部合宿       |                |
|      |                | 修学旅行           | 学年末考査          |
| 3 月  | マラソン大会         | マラソン大会         |                |
|      |                |                |                |
| 3 月  | 学年末考査<br>卒業式   | 学年末考査<br>卒業式   | 卒業式            |
|      |                |                |                |

(月に1回、学校美化日を予定する。)

### 1. 年間行事計画立案のねらい

学校行事を充実、活性化させることによって、生徒の学ぶ意欲と帰属意識を高め、主体的で実践的な態度を養うことをねらいとして、次のようなことに留意して立案した。

## 2. 年間行事計画立案にあたっての留意事項

- (1) 3年間の学校生活に潤いとリズムが生まれるよう留意した。
- (2) 体育祭と文化祭を年間の二大行事としてとらえ、この二つの行事が、それぞれ生徒の主体的で意欲的かつ組織的な取り組みを通じて実施できるようにした。また、体育祭、文化祭は学校と地域の交流を図る機会ととらえ、一学期と二学期のそれぞれの休日に実施し地域の人々に公開できるようにする。
- (3) 行事に向けた生徒の活発な活動によって、ホームルームのまとまりと生徒のホームルームへの帰属意識を高められるよう行事の配置に配慮した。
- (4) 移動教室は、早い時期からホームルームが学校生活の基盤として機能するように、できるだけ早く実施したいものであるが、生徒が実施運営に参画するための準備期間と、全校一斉に実施できる時期を考慮して、4月下旬に配置した。

第一学年は主体的な学校生活をする態度と能力、第二学年は中堅学年としての自覚と指導力を養うことを目的とする。第3学年は同時期に進路懇談会や進路別の企業や大学等の見学会を行う進路教室とした。
- (5) 修学旅行は、高校生活で最も思い出に残る行事なので、できるだけ他の行事と重ならないようにし、自主的で自発的な事前準備期間をとることができるように1月下旬に配置した。
- (6) 生徒に成就感、達成感を体験させる行事としてマラソン大会と、希望者にはスキー教室を、それぞれ配置した。
- (7) 9月に合唱コンクールを配置して、夏休み後のホームルームの再結束と、文化祭への準備及び文化活動の振興を図った。
- (8) 芸術観賞教室は、芸術的活動の動機付けを行えるように、体育祭の後に配置した。
- (9) 球技大会を1学期の期末試験終了後に配置し、ホームルーム意識の高揚を図った。
- (10) 部活動の活発化を図るために、合同合宿を夏季休業中に配置した。
- (11) 月に一度学校美化日を配置して、全校生徒による環境美化活動を推進するようにした。
- (12) 諸行事を運営するホームルームのリーダーを育てるためにリーダー研修会を新年度開始前に配置した。
- (13) 生徒会役員改選は文化祭終了後に行い、生徒会運営組織づくりのための生徒会執行部合宿を冬季休業中に配置した。

## VI まとめ

平成5年度の東京都教育委員会発行の「生活指導研究協議会資料」によると、昭和63年度以来生徒数が減少しているにもかかわらず、中途退学者数は年々増加している。平成3年度からは減少に転じたものの、割合では平成4年度になってようやく横ばい状態になっている。中途退学の原因は、複雑であり、ケースによっても異なるので一言でいうのは難しいが、その原因の一つに多様化している生徒に学校が対応しきれていないことが考えられる。

この研究の出発点は、特別活動の活性化と充実によって、今日的な教育課題である中途退学者を一人でも減らせるのではないかと議論からであった。今回の調査と文部省の資料によると、在校生と中退者の高校生活における意識の大きな違いは、学校生活の充実度であり、その充実度の中身は、友人との話合いの経験、文化祭、体育祭、移動教室、修学旅行等の学校行事及び部活動であった。このことから、ホームルーム活動と密接な関係をもたせながら、学校行事と部活動を活性化し、充実させるにはどうすればよいかということが課題になった。この課題の研究を通して、生徒の学ぶ意欲と帰属意識を高め、主体的で実践的な態度を育てる指導の工夫が少しずつ見えてきている。

この研究を通してわかったことは、先ず何よりも教師自身が学ぶ意欲をもち、自分の学校を愛し、主体的で意欲的な教育活動をすることである。毎年同じ内容の授業をしたり、行事は一部の教員に任せたり、部活動の顧問を嫌がったりするなどの実態はないだろうか。教育の専門家として、多様な生徒に適切に対応し、一人一人の生徒を大切にする教育を推進するには、教師自身と学校が変わる必要がある。学校は生徒の実態を踏まえ、全教職員の共通理解のもとに、教員一人一人の意欲と指導力を充分発揮できる指導体制を創る必要がある。これができなければ、生徒の学ぶ意欲と学校への帰属意識を高め、主体的で実践的な態度と能力を育てることは難しいのではないだろうか。

本研究では、行事予定モデルプランや学校行事と部活動の改善策を示したが、学校によっては事情が異なるので実態にそぐわない部分があるかも知れない。しかし、基本的には特別活動の正しい方向だと考えている。この資料が、各学校の行事と部活動の在り方を見直す際の一助となれば幸いである。